

「火災発生、集合せよ」 団員メール連絡網

江津の嘉久志消防分団導入

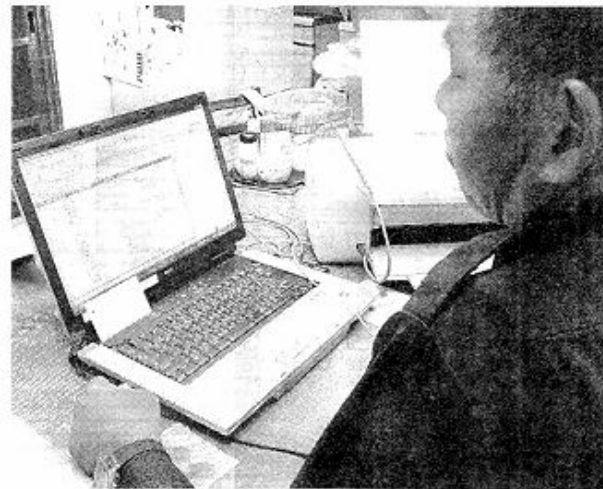
災害時の出動を迅速化するため、江津市消防団嘉久志分団(山藤幸男分団長、二十三人)が、連絡網に携帯電話のメールシステムを取り入れ、習熟を図っている。電話連絡網より一手間もかからず、「確実」と団員たちに好評だ。



松江市内のソフトウェア開発会社、システムデザイン・アクティ(石本光史社長)が開発した情報伝達システムを活用。連絡担当者のパソコンから、団員にメールを一括送信でき、送信後は担当者のパソコンで、各団員がメールを確認したかどうかや、コメントが確認できる仕組み。分団長から副分団長、さらに各団員へと枝分かれする従来の電話連絡網は、話し中の場合などあっても、全員に連

一括送信で迅速化

絡が行き渡るまで三十分から四十分程度かかり、短縮化が課題となっていた。同分団は同社と契約を結んだ。メール連絡網の連絡で分団納庫に集合し、対応状況を確認する江津市消防団嘉久志分団員たち



各分団員にメール送信後、パソコンで受信状況やコメントを確認する沖田晃宣副分団長

だ後、メール連絡網の対応訓練以内に返信するなど、以前の訓練を重ね、九月初旬に行った訓練より、対応が速くなった。訓練でも沖田晃宣副分団長(50)は「災害時(52)が自宅のパソコンからは速く出動することが大切。火災発生、出動の可否を一人で、メール連絡網は役に立つ。力し納庫に集合せよ」とのメッセージを送り、登録済みの団員18人のうち、11人が十分した」と話した。